

「小河内」便り 第16号 平成24年3月

特定非営利活動法人 小河内プロジェクト（理事長 渡辺眞作）



事務所 〒731-1171 広島市安佐北区安佐町小河内4579-3

安佐小河内集会所内

TEL&FAX 082-835-0831

ホームページURL <http://ogauchi.web.fc2.com/>

1・NPO活動の1年を振り返って

少子高齢化と人口減少で過疎化が進み、先行き不安が漂っている小河内を元気にしようと、NPO法人を立ち上げ1年になります。手さぐりで試行錯誤を繰り返しながら、とにかく前を向いて全力で走ってきました。会員の皆さまを始め、ご支援いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。現況やこの1年間の活動概要、見えてきた課題等をご報告します。

【1】法人の概要

名 称 特定非営利活動法人小河内プロジェクト

（理事長 渡辺眞作、副理事長 安福孝昭、他理事7名、監事2名）

設 立 平成23年4月1日（法人登記）

会員数（平成24年2月末現在）

		全会員	小河内地区の会員	地区外の会員
正会員	個人（人）	72	60	12
	団体	8	1	7
賛助会員	個人（人）	132	107	25
	団体	1	1	0
	計	213	169	44

総収入 800万円、 総支出 600万円（何れも3月末見込みの概算）

【2】活動概要

毎月理事会を開催、広島市や農村活性化コーディネーターの助言をいただいて、事業の計画や執行、課題、対策等について協議し予定通りの事業を終えました。

1・農業、農地保全事業

高齢化等に伴う耕作放棄地を食い止めるため、中山間地等直接支払制度助成金約830万円（上記の収入には加算していません）を受けて、120世帯、約50haの農地を保全、小河内の農業を守りました。

2・ハウス食品の「食と農と環境の体験教室・広島」

ハウス食品がスポンサーになり、5月の田植えから11月の収穫祭まで4回実施、延べ約120人参加し、親子で米づくり体験を通じて「食と農と環境」の大切さを小河内で学びました。

3・白島商店会の酒米作り

6月の田植えから10月の稲刈りまで3回実施、延べ約160人参加、12月には同会員の原本店が醸造した純米酒「白島ろまん」を限定販売されました。

4・農村体験ツーリズム

日時	ツーリズム内容	参加者（人）	備考
7月 9日	歴史探訪と野菜もぎ取り販売	30	養山八幡神社～西福寺～どんどん農園
10月 9日	農産物市（来訪者）	推定200	野外活動センターオープンデー
10月23日	柿もぎ体験と交流会①	96	
10月29日	柿もぎ体験と交流会②	86	
11月19日	ゆずもぎ体験と交流会	10	同日開催の牛頭山登山は雨天で中止
12月 3日	漬物講習会と交流会	30	
2月18日	炭焼き体験（桜山窯）	30	
3月10日	滝山登山と縁側カフェ	106	黒瀬ルート、松田宅

5・炭焼き事業

（1）弥太郎君

6月、ホームセンター「ナフコ」で販売開始 その他、地区内のおおばストア、玉田商店、増野商店や近隣の店で販売中。約2,600袋出荷（販売及び地区、会員配布、サンプル提供等合計）尚、3月末ナフコの77店舗（九州の各店舗や関西、中部ブロックの店舗）に出荷予定。

（2）炭焼き窯2基建設（公益信託広島市まちづくり活動支援基金事業）

弥太郎君や木竹炭の需要増に備え、生産体制を強化するため、公益信託広島市まちづくり活動支援基金（ふむふむ助成金）の助成を受け、炭焼き窯2基（桜山と一面）建設しました。

（3）その他

竹炭や飾り炭等についても研究中です。

6・農産物の販売、加工（6次産業化）

小河内産の農産物は「小河内の市」広島市青少年野外活動センター「オープンデー」で販売。ツーリズムやイベント時に合わせ、小河内の市を開催、今後の開催検討。

7・LEDホテルかご

イベント等に出品、商品づくりや販売先等研究段階です。

8・どんどん農園

休耕田を利用し、有料配食の食材やイベント等のもぎ取り販売等に栽培。

9・有料配食

地区内の希望する家庭に月、約100食余り配食。

10・広報活動

（1）ホームページ

（2）小河内便り

年6回発行、会員、応援団、小河内全世帯、公民館、郵便局、区役所等1回350部

11・その他

公益財団保法人あしたの日本を創る協会よりまちづくり奨励賞受賞（11月）

【3】課題

- 1、事業運営スタッフが足りなく、理事や一部住民に負担がかかっている。
- 2、NPO法人Oプロジェクトと地区内の他の団体（体協、子供会、寿永会、女性会、社協）との連携が不足している。

【4】今何故、NPOなのか

あらためて、NPO設立の背景や意図等についてご説明します。住民の皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

- 1、小河内の少子高齢化、人口減少、過疎化は進行中です

小河内に若者が少なく（19歳以下が30人、5・6%）高齢者が多く（高齢率約49%）荒廃する一方の農地を活用して、農業に関心のある若者を呼び込み、農業で自立する環境をつくるのが過疎化に歯止めをかけることにつながらないだろうか。農業をしたい、やる気のある人（地元以外の人）に、農業の魅力や可能性を、又農業経営の環境をサポートすることで、活性化が期待できる。小河内地区は118万人が住む大都市（広島市）と1時間ばかりの至近距離にある。過疎化を食い止めるために住民の理解を得ながら農地を復活してくれる人（若者）を「呼び込む」政策を住民と行政が進める、その橋渡しができるのがNPO法人小河内Oプロジェクトだと考える。

- 2、小河内には多くの宝があります（豊かな自然、歴史・農村文化、生きる力を備えた名人等）

広島市近郊は開発が進み、スプロール現象（虫食い状態）が見られる中で小河内は地形や交通不便さ等が幸いして、昔のままの自然や文化、良好なコミュニティ、生きる力を備えた人材がいます。

各種ツーリズム等では小河内を訪れた人は延べ約700人、この内約半分が初めて来た人でした。都市住民から見れば、小河内はとても魅力的なところです。彼らはそれに気づかせてくれました。

- 3、誰がこの小河内を守るか

小河内の宝を生かし、過疎化を食い止め、小河内を守るのは最終的には小河内に住む私たちです。行政（広島市）は公平＝法）、企業は利益＝コスト）と言う壁があります。行政もかゆいところに手が届かず、企業も手が出さない、結局困るのは住民です。自分の身は自分で守る、これが自分を守る道です。地域を一番良く知っている住民が守る、住民自治の原則です。

- 4、何のためのNPOか

NPO法人小河内Oプロジェクトは、今の小河内を守り、将来に向かって持続可能な小河内（社会）を造るために、つまり住民の住民による、住民のためのNPOです。小河内の誰もが「小河内に住んで良かった、住んでみたい、さらに行ってみたい」と実感されるような夢や希望、生きがいがある小河内、日本一の元気な田舎を目指しています。

- 5、NPO法人小河内Oプロジェクトは

小河内を守る、と言っても個人ではできません。何をするかのプランを立て、実行するには多くの人もお金も情報も、そして外部の協力が必要です。

これらを責任も持って効果的、効率的に、又信用を得て行うためには法に基づいた組織が必要、こうした手続きを得て設立したのがNPO法人小河内Oプロジェクトです。

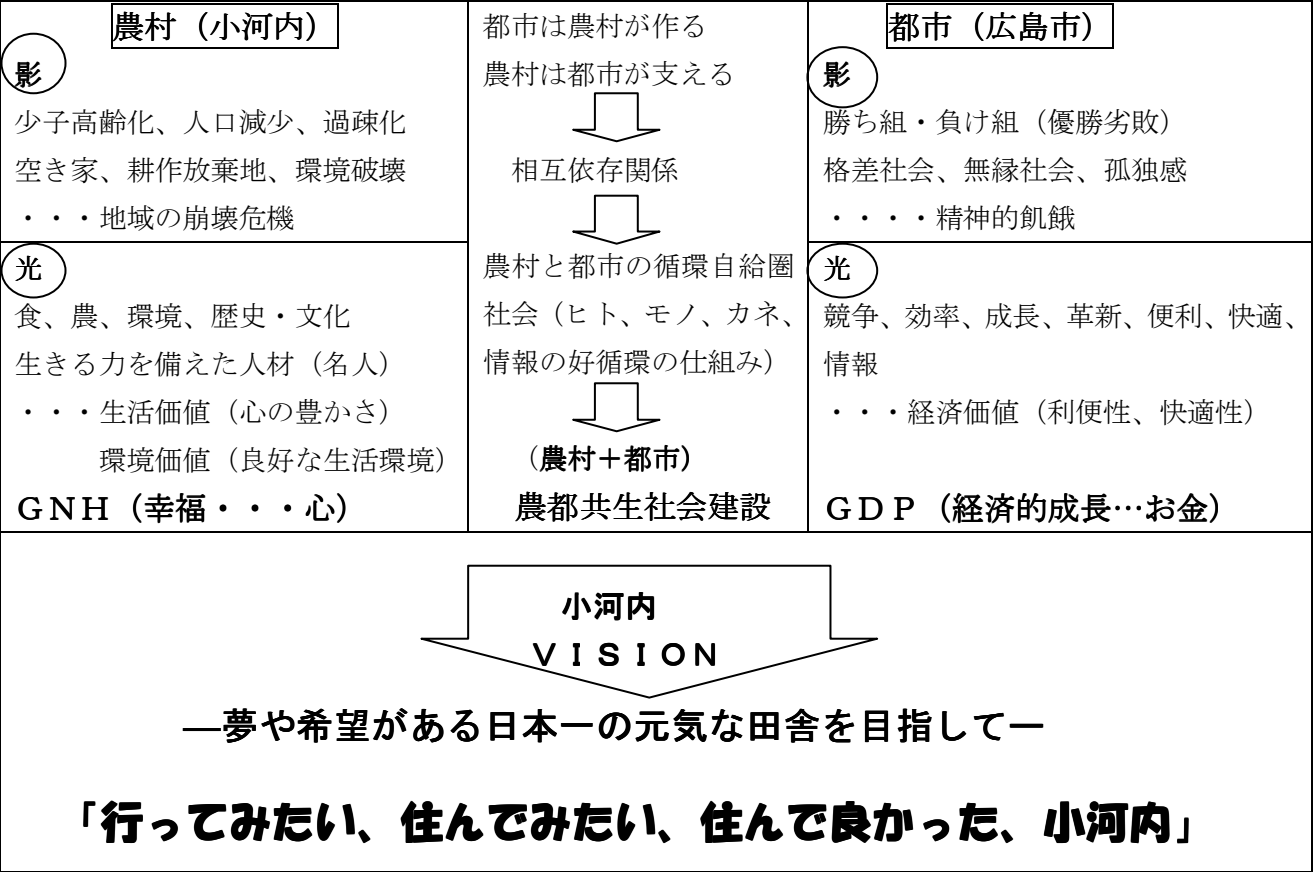
2・農村と都市の共生社会建設について

～ 限界集落から「源快集楽・小河南」へ ～

趣旨

都市（広島市）と農村（小河南地区）を結ぶ農都共生社会建設により、ヒト、モノ、カネ、情報が好循環する仕組み（農村と都市の循環自給圏社会）を作ることが小河南を再生する道、これを小河南がモデルになり、未来を先導するまちづくりを建設したい、と考えています。

農村と都市の共生社会イメージ



3・農村体験ツーリズム「炭焼き体験」を行いました

■日 時 平成24年2月18日（土）雪 ■場 所 桜山炭焼き窯（上楓原）

■参加者 30人 （スタッフ18人）

概要

前日来からの雪のため、開催が危ぶまれていたが、予定通り実施。申し込み締切時50人であったが、風邪や雪道の運転に不慣れ等の理由から20人欠席、結局参加者数30人であった。

雪のため近辺からの参加者が多かったが、アメリカ人や生粋の東京人も参加、日本の田舎の暮らしの文化に広く興味を持っていると感じた。下記のように小河南に始めて来た人が半分の14人、炭焼き経験のある人は5人（18％）で大半は未経験者であった。応募した理由は炭焼きの現場を見たかったからが（14人）、一番多く次に自分で焼くために勉強したい人が11人であった。80％近い人が満足した、と回答した。尚、早速この模様は、19日付の中国新聞朝刊に掲載された。

■アンケート回答から（一部抜粋）

- ・炭焼き窯を実際に見たこと、釜の構造、焚口の作り方（鉄板）が参考になった。
- ・名人から生の声を聞いたこと、名人の技が勉強になった。
- ・食事にお汁等のごちそうをして頂いたこと、美味しかった、豚汁でホットした。
- ・開講前に炭焼き講座が欲しかった。
- ・パッケージを工夫しネット販売、ふるさと宅急便、焼き肉とセットで販売（販売方法）したらどうか。



雪の中の参加者（桜山窯）



炭の取出し体験をする参加者

4・ツーリズム「滝山登山と縁側カフェ」を行いました

■日 時 平成24年3月10日（土）曇り ■滝山登山（黒瀬ルート）

■登山者 106人（内、スタッフ22人） ■縁側カフェ 松田宅（地元主婦等6人）

登山ブームを反映してか、小河内の最高峰滝山（692m）に100人を超える申し込みがあり、駐車場やトイレ対策に一時大わらわでしたが、地元の松田様の全面的なご協力により、無事終えることができました。登山者の安全性や効果的なガイドを考え、到着順に20人程度の5グループに分け、それぞれの先頭と最後に地元民を配置し、登山しました。こうした工夫でスムーズに事故もなく終わりました。一番の見どころは消滅した矢が谷集落を元住民の前戸誓さん（85才）が自ら当時の暮しを説明していただいたことでした。又下山後は松田様宅でコーヒーやケーキの縁側カフェで地元の主婦と交流、アットホームなひと時を過ごしました。寒い日でしたが、予定通り行うことができました。

翌日は雪が降り頂上付近は白くなっていました。

■アンケートから

- ・参加者は圧倒的に高齢者（60代が40人－65％、70代が11人－18％）
- ・約半分は小河内に初めて来た人であった（29人－47％）
- ・滝山登山は初めての方が圧倒的に多かった（55人－89％）
- ・小河内の印象は、自然が豊かで人が親切、人情が厚い、日本の原風景に出会ったようだ、空気がうまい、山奥、田舎、バスの便が少なく不便、という印象も。
- ・大半の人が満足と回答、大満足（24人－38％）、満足（27人－44％）

- ・何が良かった（満足）でしたかと言う回答は、前戸さんの昔お話や立ち歩くお姿に感動した、地元のガイドがついて下さり安心して登れた、温かいコーヒーで疲れがとれた、地元の人と話ができ心も温かいものを感じた、と縁側カフェを評価。



矢が谷集落跡で説明する前戸誓さんと参加者



頂上で中国山地の山並みを見ながら昼食



縁側カフェの模様



縁側カフェの地元の主婦の皆さん

編集後記

3月、4月は別れと出会いの時ですね。3月19日の小河内小学校卒業式で5人が巣立ちました。4月から飯室の清和中学校に進みます。そして、新しく2人入学して、3人減り10人になります。

小河内っ子は自然豊かな中で伸び伸び育ち、明るく元気です。みんな兄弟姉妹のように仲良しで、「いじめ」はありません。学業成績も市内の大人数の学校に比べても劣ることはないそうです。この子らが小河内に育ったことを誇りに思い、将来小河内に希望や夢を持って喜んで帰えるよう、今その礎を築かなければ、との思いを強くしています。NPO小河内Oプロジェクト設立、1年過ぎようとしている今、大きな成果はありませんが、都市部からツーリズムに参加した人は、小河内は自然豊かで魅力的なところ、という印象が強いです。又、小河内は頑張っているとか元気だ、と言う声も聞こえてきます。故郷に誇りがもて、夢や希望、そして生きがいのある小河内にしたいと役職員一同願っています。どうか引き続きご支援賜りますようよろしくお願い致します。(S)